

保育者養成における学生の身体表現に対する意識と 授業の実態に関する調査研究

— 「身体表現 I」の授業活動におけるアンケート調査から —

川野 裕姫子

KAWANO Yukiko

身体表現は、乳幼児にとって豊かな感性や表現力を養うことから、保育者養成校では、学生に表現方法の理解や身体表現力を向上させることが必要である。本研究は、身体表現 I (必須)の受講生を対象に身体表現に関する調査を行い、指導に対する身体表現の理解度、及び学生の特徴と理解度及び満足度の関係を明らかにすることを目的とした。理解度と満足度の肯否度数の差は χ^2 検定により、また質問項目間の肯否関係は ϕ 係数により検討した。

受講生の約83%はダンス経験があり、約92%がダンスの鑑賞が好きで、約67%がダンスが好きと回答し、71%以上は指導に対して身体表現が「やりやすい」と回答した。また、約96%が、将来保育者になるために身体表現 I の授業は必要と考えていた。よって、ダンス経験が豊富な学生が多く、身体表現や表現鑑賞の好感度は高いが、学生の身体表現能力の満足度は約52%であり高いとはいえず、ダンス経験や指導に対する身体表現の結果と異なる。

キーワード：保育者養成校、身体表現、乳幼児、感性、創造力、表現力

1. はじめに

幼稚園教育要領に「表現」という領域が1989年(平成元年)に告示され、「音楽リズム」と「絵画制作・造形」が改訂され、乳幼児の発達や主体性を重視するという保育全般の柔軟な視点へと変化した。それに伴い、身体表現あそびが幼児教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」に統合された。幼児の身体表現は、特定の技術の指導に偏ることなく、幼児の豊かな感性を培い、創造性を豊かにすることが重要であり¹⁾、幼児の遊びの中で重なり合ったイメージを、子どもなりに感じたり、考えたりしたことを思いのまま実践し、からだを使いのびのびと表現する内容となった²⁾。改訂後30年が経過し、今回の2回目の改訂では大幅な変更はなく「表現」領域という名称とその提示する方向性は、保育現場に十分に浸透したと思われる。しかし、最近、子どもが本来求めている表現の原点を見直す動きが見られている³⁾。

高原ら⁴⁾は、幼稚園や保育所の保育者を対象に身体表現活動の実態を調査し、表現活動は音楽表現が主流で、からだを使った表現活動は「手遊び」や「歌や曲に合わせた踊り」が多く、からだの動きをベースにした身体表現活動は十分に行われていないことを明らかにしている。その要因として、身体表現に対する保育者自身の経験不足や苦手意識の問題に加え、まだ改定前の幼稚園教育要領の「音楽リズム」の流れで身体表現活動が行われていることを挙げている。鈴木ら⁵⁾によると、保育活動を通して子どもが本来持っている表現を養うことが保育者に委ねられており、保育者自身は身体表現あそびの指導の困難さを感じていることが示されている。古市⁶⁾は、「身体表現」について、定型的な枠ではとらえにくく、いくつかの困難さをもつ領域であり研究実績も十分でないと述べている。

寺山⁷⁾は、小・中学校の多くの教員は、「表現・ダンス」は指導しにくいと感じ、「意義を理解できても指導できない」状況に陥る可能性が高いと報告している。実際、保育養成学生の中には、音楽に合わせて身体表現をする行為に突然拒絶反応を起こす者も多く⁸⁾、また、受け身で指示待ちであり、人前で一人で発表したり、歌ったりする際に責任をもってできない者が多い⁹⁾。石川⁹⁾は、人と違う動きや言動に抵抗感や羞恥心を感じる者もいること、米倉¹⁰⁾は、義務教育や高等学校での表現指導では豊かな表現は身に付かなかったこと、あるいは、家庭環境において芸術的分野に取り組む機会があればイメージや感動を表現する場があり、乏しい感性にはならないことを指摘している。

本校で開講している身体表現Ⅰ（必須）は、学生が将来、保育者として身体表現を子どもたちに楽しませながら創造力、想像力、及び表現力を育成し、感性を豊かにすることを目標としている。そのためには、学生に現代社会における乳幼児にとって「身体表現」の重要性と発育に応じた表現方法を理解させ、学生自身の身体表現力を高めさせることが重要であり、必修の課題と考えられる。宮下¹¹⁾の報告から、保育士養成校の学生の多くは、将来保育現場において、ダンスや身体表現の指導はしたいが、子どもと一緒に活動することには消極的で、ダンスが不得意と考えていることが伺われる。本校における身体表現Ⅰの受講者の中にも同様な学生が存在する可能性が高い。よって、身体表現Ⅰの授業では、知識を教えるだけでなく、各種身体表現を実践させ、身体表現やグループでの創作活動の楽しさを体験させることにより、学生らの身体表現力を向上させることが必要であろう。

一方、乳幼児期は音楽のリズム、強弱、高低、などの色々な音の刺激に対して身体で反応して動くリズム感覚を養う重要な時期である¹²⁾。保育所保育指針や幼保連携型認定こども園・保育要領における1歳以上3歳未満児の「内容」では、「音楽やリズムに合わせた体の動きを楽しむ」ことがあげられている。よって、保育現場でも主に音楽を利用する身体表現あそびを主として指導することになる。身体表現Ⅰの授業では、上述のことも踏まえて、青木ら¹³⁾の「色々な動きの体験と探求の活動」、「イメージと動きを結びつける活動（イメージと動き）」、及び「音楽刺激を中心としたリズムカルな身体活動（音と動き）」の3分野の活動プログラムを参考とし、「動きから表現、イメージと動き」の身体表現や「即興的表現や言葉がけ（オノ

マトペなど）を使用しての創作身体表現」を、また、「リズムあそび」、「伝承・郷土あそび」、「身体表現あそび（手遊あそび・歌あそび）」、「基本的動作あそびや基本ステップ練習」、「各種リズムダンス」に関して、学生の表現能力や創造性を段階的に高めることを意図して授業を展開する。しかし、学生が指導内容の意図をどの程度理解しているか不明である。また、学生の理解度は、学生のダンス経験の有無、ダンスの好嫌、ダンスや身体表現に対する関心の有無、等によって異なると仮定される。前述の問題を明らかにすることは、身体表現Ⅰの授業内容の改善と共に、次回に開講される身体表現Ⅱ（選択）の授業内容の改善にも貴重な資料を提供することになると考えられる。

本研究は、身体表現Ⅰ（必須）の受講生を対象に授業における指導事項（内容）の身体表現が「やりやすい」か否か（理解度）及び受講生の特徴と身体表現の「やりやすい」肯否（理解度）との関係を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

1. 調査対象者

調査対象者は、K短期大学（保育者養成学校）の身体表現Ⅰを受講している1回生57名（男性4名、女性53名）であった。研究の趣旨を詳細に説明し同意を得た学生52名（男性4名、女性48名）の資料（回収率91.2%）を解析に利用した。

2. 調査期間

調査期間は、2019年度の身体表現Ⅰの授業を担当したのは2クラスであり、調査は15回目の授業終了時に実施した。

3. 授業内容と質問調査

身体表現Ⅰの指導事項（内容）は、先行研究も考慮し、リズムあそび、伝承・郷土あそび、身体表現あそび、基本的動作あそびや基本ステップ練習、及び各種リズムダンスのカテゴリーに大きく分類される。具体的指導事項（内容）の詳細は参考資料Ⅰを参照のこと。調査内容は大きく2群に分類される。Ⅰ群は、受講生（学生）の特徴に関する過去のダンス（身体表現）経験（質問1と質問2）、ダンス（身体表現）活動や鑑賞の好嫌（質問3と質問4）、及び身体表現Ⅰの授業の興味（質問5）、受講後の身体表現能力の満足度（質問21）、及び身体表現Ⅰの授業の必要性（質問22）に関する事項である。

Ⅱ群は、授業における指導事項（内容）の身体表現が、受講生（学生）にとって「やりやすいか否か（理

解度)」に関する質問であった。リズムあそび(質問6～質問8)、伝承・郷土あそび(質問9)、身体表現あそび(質問10～質問15)、基本的動作あそびや基本ステップ練習(質問16と質問17)、及び各種リズムダンス(質問18～質問20)の計15項目であった。質問項目の多くは、4段階(1.とても興味がある、2.まあ興味がある、3.あまり興味がない、4.全く興味がない、あるいは1.とてもやりやすい、2.やややりやすい、3.やややりにくい、4.とてもやりにくい)のいずれかに該当するか回答を求めたが、回答度数を考慮し2段階(「ある」、「ない」、あるいは「やりやすい」、「やりにくい」)に統合した。なお、調査表は、参考資料IIを参照のこと。

3. 統計解析

各質問に対する肯否度(理解度)数(比率)の差は、適合度の検定(χ^2 検定)により、また質問項目間の肯否関係は独立性の検定により検討した(ϕ 係数)。有意水準は5%とした。

4. 結果

1. 受講学生の特徴

表1は、身体表現活動に関する各質問に対する回答度数(比率)とその検定結果を示している。

表1 身体表現活動に関する各質問に対する回答度数(比率)と度数の検定結果

問	質問項目	回答数(%)	回答数(%)	χ^2 値
問1	中、高等学校でのダンス(身体表現)経験	ある 41(78.8%)	ない 11(21.2%)	17.308*
問2	授業以外でのダンス(身体表現)の経験	はい 14(26.9%)	いいえ 38(73.1%)	11.077*
問3	あなたはダンス(身体表現)活動は好きですか	好き 35(67.3%)	嫌い 17(32.7%)	6.231*
問4	あなたはダンス(身体表現)を鑑賞することは好きですか	好き 48(92.3%)	嫌い 4(0.7%)	37.231*
問5	あなたは、「身体表現I」の授業に興味がありましたか	ある 34(65.4%)	ない 18(34.6%)	4.923*
問6	あなたは、リズムあそび(手拍子による音の強弱、高低、リズム変化)の表現はやりやすいですか	やりやすい 49(94.2%)	やりにくい 3(5.8%)	40.692*
問7	あなたは、リズムあそび(ボデーパカッションを使用)の表現はやりやすいですか	やりやすい 48(92.3%)	やりにくい 4(0.7%)	37.231*
問8	あなたは、リズムあそび・音あそび(手拍子、足拍子)の表現はやりやすいですか	やりやすい 47(90.4%)	やりにくい 5(9.6%)	33.923*
問9	あなたは、伝承的、郷土的なあそび(わらべ歌)の表現はやりやすいですか	やりやすい 47(90.4%)	やりにくい 5(9.6%)	33.923*
問10	あなたは、身体表現あそび[歌あそび・(手あそび)]の表現はやりやすいですか	やりやすい 49(94.2%)	やりにくい 3(5.8%)	40.692*
問11	あなたは、身体表現あそび[歌あそび・(全身を使用)]の表現はやりやすいですか	やりやすい 43(82.7%)	やりにくい 9(17.3%)	22.231*
問12	あなたは、身体表現あそび(動きから表現、イメージと動き)の表現はやりやすいですか	やりやすい 37(71.2%)	やりにくい 15(28.8%)	9.308*
問13	あなたは、身体表現あそび(即興的な身体表現を伴うお話づくり)の表現はやりやすいですか	やりやすい 31(59.6%)	やりにくい 21(40.4%)	1.923
問14	あなたは、身体表現あそび(身体表現を伴うお話づくり)の表現はやりやすいですか	やりやすい 32(61.5%)	やりにくい 20(38.5%)	2.769
問15	あなたは、身体表現あそび[擬態語・擬音語・擬声語(オノマトペ)や言葉がけを導入]の表現はやりやすいですか	やりやすい 39(75.0%)	やりにくい 13(25.0%)	13.000*
問16	あなたは、基本的動作あそび(歩く、走る、跳ぶ、転がる、回る、這うなど)の表現はやりやすいですか	やりやすい 45(86.5%)	やりにくい 7(13.5%)	27.769*
問17	あなたは、基本ステップ練習(2拍子、4拍子、3拍子)の表現はやりやすいですか	やりやすい 40(76.9%)	やりにくい 12(23.1%)	15.077*
問18	あなたは、フォークダンスの表現はやりやすいですか	やりやすい 39(75.0%)	やりにくい 13(25.0%)	13.000*
問19	あなたは、リズムダンス(既成作品のダンス)の表現はやりやすいですか	やりやすい 40(76.9%)	やりにくい 12(23.1%)	15.077*
問20	あなたは、創作リズムダンス(自分たちで創作したダンス)の表現はやりやすいですか	やりやすい 35(67.3%)	やりにくい 17(32.7%)	6.231*
問21	あなたは自分自身の身体表現能力に満足していますか	している 27(51.9%)	していない 25(48.1%)	0.077
問22	あなたは、将来保育者として「身体表現I」の授業が必要と思いますか	思う 50(96.2%)	思わない 2(3.8%)	44.308*

*:p<0.05

質問1には、学生の41名(約79%)が中学・高等学校の体育授業においてダンス経験があると回答し、ダンス経験者は有意に多かった。質問2には、学生の14名(約27%)が体育授業以外でもダンス経験があると回答し、回答人数に有意差があった。「はい」と回答した14名の内2名は、中学・高校でのダンス経験はなく、「いいえ」と回答した38名の内の9名は中学・高等学校でもダンス経験がなかった。よって、全受講生の43名(約83%)はダンス経験があり、9名は経験がなかったことになる。質問3には、多くの学生(約67%)が、ダンスが「好き」と回答し、「好き」の回答者が有意に多かった。質問4には、殆どの学生(約92%)がダンスの鑑賞が「好き」と回答し、「好き」の回答者が有意に多かった。質問5には、学生の約65%が身体表現Iの授業に興味がある「ある」と回答し、「ある」の回答者が有意に多かった。また、質問2(授業以外のダンス経験有無)は質問3(ダンスの好嫌: $\chi_0^2=5.683$ 、 $\phi=0.331$)と、質問3(ダンスの好嫌)は質問5(身体表現Iの授業の興味有無: $\chi_0^2=6.540$ 、 $\phi=0.355$)と有意な関係が認められた(参考資料IIIを参照)。

2. 授業のやりやすさ(身体表現の理解度)の特徴

質問6から質問20は、身体表現Iの授業における指導事項(内容)に関する身体表現が「やりやすいか否か(理解度)」に関する質問である。質問13「身体表現あそび(即興的な身体表現を伴うお話づくり)」(約

60%)と質問14「身体表現あそび(身体表現を伴うお話づくり)」(約62%)はやりやすさの肯否度数(人数)に有意差は認められなかったが、他の質問は多くの受講者(71%以上)が「やりやすい」に肯定回答し、否定回答者よりも有意に多かった。

表2はこれら質問項目間の関係(ϕ 係数)を示している。前述のごとく、質問13と質問14間にのみ有意差が認められなかったが、表2から、両者の関係は最も高かった($\phi=0.719$)。これは、両質問において「やりやすい」に28名(53.8%:28/52)がともに肯定、また17名(32.7%)がともに否定の回答で86.5%が一致したことによると考えられる(参考資料III)。

一方、表2は、同じカテゴリー内の質問でも有意な関係がないことを示している。例えば、リズムあそびに関する質問7と質問8は有意な関係($\phi=0.640$)が認められたが、両者は質問6と有意な関係ではなかった。身体表現あそびに関する質問12、質問13、質問14、及び質問15は、相互に有意な関係($\phi=0.456\sim0.719$)が認められたが、質問10と質問11は、質問12、質問13、及び質問14と有意な関係ではなかった。基本的動作あそびやステップ練習に関する質問16と質問17も有意な関係ではなかった。各種リズムダンスに関する質問18、質問19、及び質問20の相互関係は、有意に低かった($\phi=0.422$ 以下)。しかし、これらの質問は、質問17(基本ステップ練習)と有意な関係($\phi=0.422\sim0.567$)があった。

表2 身体表現Iの授業内容に関する質問項目間の関係(ϕ 係数行列)

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
6		0.265	0.339	0.177	4.449*	0.571	0.031	0.913	0.035	0.118	1.079	0.189	0.118	3.408	1.670	0.441	0.127
7	0.071		21.316*	1.180	15.594*	20.74*	0.945	0.166	2.444	5.778*	4.966*	6.962*	6.962*	6.962*	3.525	1.258	0.173
8	0.081	0.640		0.686	2.061	15.191*	2.616	0.884	1.084	0.664	10.285*	10.098*	8.925*	10.098*	1.875	5.974*	0.221
9	0.059	0.151	0.115		11.923*	1.990	7.053*	8.166*	4.033*	8.925*	10.285*	0.030	0.074	0.892	5.626*	2.129	0.221
10	0.293	0.548	0.199	0.479		15.211*	2.219	0.913	1.070	9.551*	7.736*	3.452	0.118	3.408	1.670	0.441	0.127
11	0.105	0.631	0.541	0.196	0.541		3.783	3.123	3.658	16.169*	3.689	6.468*	2.195	18.346*	5.709*	3.846*	0.435
12	0.025	0.135	0.224	0.368	0.207	0.270		18.756*	15.368*	13.773*	7.146*	3.401	5.278*	1.249	11.058*	5.387*	0.843
13	0.133	0.057	0.130	0.396	0.133	0.245	0.601		26.871*	14.085*	6.904*	2.087	3.222	4.476*	9.570*	4.877*	0.080
14	0.026	0.217	0.144	0.278	0.143	0.265	0.544	0.719		10.833*	3.714	2.603	0.433	2.603	11.014*	1.851	0.117
15	0.048	0.333	0.113	0.414	0.429	0.558	0.515	0.520	0.456		24.267*	9.244*	7.692*	9.244*	6.555*	3.107	0.693
16	0.144	0.309	0.445	0.445	0.386	0.266	0.371	0.364	0.267	0.683		1.783	4.457*	5.288*	5.516*	4.590*	0.324
17	0.060	0.359	0.441	0.024	0.283	0.353	0.256	0.200	0.224	0.422	0.185		9.244*	16.698*	12.690*	11.874*	0.624
18	0.048	0.359	0.414	0.038	0.048	0.205	0.319	0.249	0.091	0.385	0.293	0.422		9.244*	3.525	9.270*	0.693
19	0.256	0.359	0.441	0.131	0.256	0.594	0.155	0.293	0.224	0.422	0.319	0.567	0.422		8.183*	11.874*	0.881
20	0.179	0.260	0.190	0.329	0.179	0.331	0.461	0.429	0.460	0.355	0.326	0.494	0.260	0.397		11.887*	1.010
21	0.092	0.156	0.339	0.204	0.092	0.272	0.322	0.306	0.189	0.244	0.297	0.478	0.422	0.478	0.478		1.926
22	0.049	0.058	0.065	0.065	0.049	0.091	0.127	0.039	0.047	0.115	0.079	0.110	0.115	0.124	0.139	0.192	

* $p<0.05$

注1: 上欄は χ^2 値、下欄は ϕ 係数 注2: 番号は、表1及び参考資料IIの質問番号に対応

3. 受講生の特徴と授業のやりやすさ(身体表現の理解度)の関係

表3は、質問1から質問5と、項目6から項目20の身体表現のやりやすさ(理解度)の関係を示している。質問1(中学・高等学校でのダンス経験有無)は、項目6から項目20のいずれの項目とも有意な関係は認められなかった。質問2(授業以外でのダンス経験有無)は、項目11(身体表現あそび:歌あそび)、項目19(リズムダンス)、項目20(創作リズムダンス)と有意な関係が認められた。質問3(ダンス活動の好嫌)と質問4(ダ

ンス鑑賞の好嫌)は、項目12(身体表現あそび:動きから表現・イメージと動き)、項目13(即興的な身体表現を伴うお話づくり)、項目15(身体表現あそび:擬態語・擬音語・擬声語)、項目17(基本的ステップ練習)、及び項目20(創作リズムダンス)と有意な関係が認められ、質問3は項目19(リズムダンス)、質問4は、項目14(身体表現あそび:身体表現を伴うお話づくり)や項目18(フォークダンス)とも有意な関係が認められた。

表3 学生の特徴(質問1~質問5)と指導事項の身体表現のやりやすさ(理解度)等の関係:独立検定(χ^2)と相関係数(ϕ)

	問1		問2		問3		問4		問5	
	χ^2 値	ϕ 係数	χ^2 値	ϕ 係数	χ^2 値	ϕ 係数	χ^2 値	ϕ 係数	χ^2 値	ϕ 係数
項目6	0.854	0.128	1.173	0.150	1.670	0.179	0.265	0.071	1.445	0.167
項目7	0.038	0.027	1.596	0.175	0.590	0.107	1.828	0.188	0.453	0.093
項目8	1.178	0.151	2.038	0.198	0.134	0.051	1.180	0.151	0.071	0.037
項目9	0.004	0.009	0.135	0.051	1.875	0.190	1.180	0.151	1.575	0.174
項目10	0.283	0.074	1.173	0.150	1.670	0.179	2.948	0.238	1.445	0.167
項目11	0.007	0.012	4.010*	0.278	2.585	0.223	3.236	0.249	0.465	0.095
項目12	0.773	0.122	0.001	0.004	7.144*	0.371	4.497*	0.294	6.002*	0.340
項目13	0.094	0.042	0.174	0.058	6.206*	0.345	6.397*	0.351	2.632	0.225
項目14	0.288	0.074	0.156	0.055	0.789	0.123	6.933*	0.365	1.549	0.173
項目15	0.038	0.027	1.173	0.150	6.555*	0.355	5.778*	0.333	2.832	0.233
項目16	2.284	0.210	0.657	0.112	2.198	0.206	0.495	0.098	4.843*	0.305
項目17	0.138	0.052	0.834	0.127	8.183*	0.397	6.581*	0.356	1.631	0.177
項目18	0.346	0.082	1.173	0.150	3.525	0.260	5.778*	0.333	2.832	0.233
項目19	0.138	0.052	5.747*	0.332	18.181*	0.591	1.769	0.184	1.631	0.177
項目20	0.186	0.060	9.305*	0.423	16.484*	0.563	8.922*	0.414	10.104*	0.441
項目21	2.419	0.216	1.173	0.150	16.317*	0.560	4.680*	0.300	3.811	0.271
項目22	7.753*	0.386	0.766	0.121	0.283	0.074	0.173	0.058	3.929*	0.275

*p<0.05

4. 身体表現能力の満足度と身体表現Iの授業の必要性

項目21(身体表現能力の満足感)は、学生の約52%が自身の身体表現能力に「満足している」と回答し、「満足している」の回答者は有意に多かった。項目22(身体表現Iの授業の必要性)は、学生の約96%の者が身体表現Iの授業は「必要と思う」と回答し、「思わない」との回答者よりも有意に多かった。一方、質問1(中学・高等学校でのダンスの経験有無)と質問5(身体表現Iの授業の興味)は、項目22と有意な関係

が認められた($\phi=0.386$ と $\phi=0.275$ 、表3を参照)。質問3(ダンスの好嫌)と質問4(ダンス鑑賞の好嫌)は、項目21と有意な関係が認められた($\phi=0.560$ と $\phi=0.300$ 、表3を参照)。

5. 考察

1. 受講生(学生)の特徴

受講生の多く(約67%)がダンス好きで、殆どの受講生(約92%)がダンスの鑑賞が好きであった。この

ことは、身体表現 I (必須) の受講生の殆ど (約 83%) がダンス経験のある学生であったことが反映していると考えられる。また、中学・高等学校での授業以外におけるダンス経験の有無 (質問 2) は、ダンスが好き (質問 3: $\phi=0.331$)、及び身体表現 I の授業の興味 (質問 5: $\phi=0.355$) と有意な関係が認められたことから、中学・高等学校での授業以外でダンス経験のある多くの学生はダンスが好きで、身体表現 I の授業に興味があるが、中学・高等学校での授業以外でダンス経験のない多くの学生はダンスが好きではなく、身体表現 I の授業にも興味がないことが推測される。宮下¹¹⁾は、146 人を対象にダンスや身体表現に関する意識調査を行い、受講生の 82% が学校の授業以外でダンスを習った経験があり、ダンス経験がなくダンスが嫌いな学生は 7 名のみで、受講生の約半数はダンスが好きであったと報告している。学生の特徴 (ダンス経験やダンス好き) に関しては、本研究の結果と類似しており、ダンス経験のある受講生は身体表現やダンスが好きで、また、身体表現やダンスが好きだからダンスを習いたいということが考えられる。久保⁸⁾は、保育者養成校 (短期大学) の学生 37 名を対象に、グループでの創作活動において、ダンス経験があり、動きの豊富な学生は苦も無く楽しんで創作活動に参加するが、ダンス経験が少ない、もしくは全く経験のない学生は踊りを作り出す作業を大変困難に感じ、活動に積極的に参加できず、創作活動にも消極的な意見が多かったと報告している。受講生の中には、ダンスの経験のない学生や身体表現やダンスの嫌いな学生もおり、このような学生と身体表現やダンスが好きな学生と一緒に指導する際の指導法が課題となろう。

2. 受講生 (学生) がやりやすい (身体表現の理解度) 課題の特徴

身体表現 I を受講して、指導事項 (内容) に関する身体表現が「やりやすいか否か (理解度)」に関する質問は、先行研究¹²⁻¹⁴⁾も踏まえて、指導内容の点から大きく、リズムあそび (質問 6~質問 8)、伝承・郷土あそび (質問 9)、身体表現あそび (質問 10~質問 15)、基本的動作あそびや基本ステップ練習 (質問 16 と質問 17)、及び各種リズムダンス (質問 18~質問 20) のカテゴリーに分類される。身体表現あそびの即興的な身体表現を伴うお話づくり (質問 13: 約 60%) と身体表現を伴うお話づくり (質問 14: 62%) 以外の多くの質問事項は、多くの学生 (71%以上) が「やりやすい」と回

答し、「やりにくい」との回答者よりも有意に多かった。多くの学生は、ダンス経験があり、ダンスの好きな学生が多かったことから、身体表現 I の授業内容のリズムあそび、伝承・郷土あそび、身体表現あそび (質問 13 質問 14 を除く)、基本的動作あそびや基本ステップ練習、及び各種リズムダンスに関する事項をやりやすいと感じたものと推測される。また、前述の有意差が認められなかった質問 13 と質問 14 の関係は有意に高かった ($\phi=0.719$)。これは、両者の質問において他の質問に比べ、「やりにくい」との回答者が多く、且つ、「やりやすい」と「やりにくい」との回答者が多く一致したことによると考えられる。

矢野下¹⁴⁾は、広島市内 A 短期大学保育科の 2 年生 102 名 (女子 96 名、男子 6 名) を対象に、本山¹⁵⁾の身体表現の授業内容を参考に「表現あそび (猛獣狩りに行く、落ちた落ちた)」、「自由表現 (オノマトペ使用、荷物を渡す・受け取る)」、「型のない踊りの創作 (運動要素やイメージから一流れの短い作品を創作)」、「型のある踊りの創作 (子どもが踊れるフォークダンス)」、「音楽に振り付ける (子どもの歌 = おもちゃのチャチャチャ、ぶんぶんぶん)」などに関する好嫌を調査し、学生は「表現あそび」、「型のある踊りの創作」、及び「音楽に振り付ける」を好み、「自由表現」及び「型のない踊りの創作」はあまり好きではなかったと報告している。弓消田¹⁶⁾は、「表現あそび」と「身体表現」の実践授業において、「物を使わないまねっこあそび」、「物を使かったまねっこあそび」、及び「易しい即興表現 (詩や歌のイメージを身体表現)」を実施し、「易しい即興表現」に関して、これまで「身体での即興表現」の経験が少なく発想が生まれず、イメージを持っていても身体が付いてこない、あるいは恥ずかしさが先行する、のいずれかの理由により、ごちなさが目立ち、言葉や音楽のイメージを感じながら身体表現をする行為に戸惑う学生が多いことを報告している。

以上の報告からも、本授業におけるダンスの経験がある学生、あるいはダンスが好きな学生においても、「自由表現」、「型のない踊りの創作」、「身体での即興表現」は、イメージから動きを創作することが難しく戸惑いがある事が伺われる。

一方、同じカテゴリー内の質問項目は、類似動作の表現であり、本来、程度の差こそあれ、相互に有意な関係が認められると考えられる。しかしながら、必ずしも有意な関係が認められないことも確認された。各

動作に対する表現のやりやすさ(理解度)は、学生により異なることが考えられる。

3. 身体表現能力に対する満足度と身体表現 I の授業の必要性

受講生の過半数(約52%)が自身の身体表現能力に満足していた。また、ダンス活動及びダンスの鑑賞が好きと自身の身体表現能力に対する満足度に関する質問項目間に有意な関係($\phi=0.560$ と $\phi=0.300$)が認められた。よって、受講生の過半数は自身の身体表現能力に満足し、ダンス活動やダンス鑑賞が好きな学生は身体表現能力に満足していると推測される。

一方、殆どの受講生(約96%)が身体表現 I (必須)の授業は、将来の保育者になるために必要と考えていた。また、ダンスの経験あり及び身体表現 I の授業に興味のある質問と身体表現 I の授業の必要性の質問項目間に有意な関係($\phi=0.386$ と $\phi=0.275$)が認められたことから、殆どの受講生は、身体表現 I の授業は、保育者にとって必要な授業と考えていると判断される。

以上の結果は、受講生の殆ど(約83%)がダンスの経験のある学生で、身体表現 I の授業に興味があり、また、多く(約67%)の受講生はダンス活動が好きで、殆ど(約92%)がダンスの鑑賞が好きであったことから、妥当な結果と考えられる。しかし、身体表現能力に対する満足度の結果から、自身の身体表現能力に満足している学生は必ずしも多いとはいえないと判断される。弓削田¹⁶⁾は、保育者養成課程の学生(1年生94名)を対象に、幼児の身体表現に関する学生の意識と実践を調査し、学生の身体表現への関心は低くなく、保育者としての使命感を持ち、自身の身体表現の未熟な経験を認知するとともに、実際の身体表現の難しさを実感していると報告している。ダンスが好きで経験がある、あるいはダンスが好きだからこそ、授業で学習する身体表現に満足していない学生も多いことが推測される。本授業では、乳幼児の自由な感性を引き出すための創作身体表現あそびの課題(質問13と14)があり、これらの質問に対し身体表現が難しいとの回答が多かった。学生たちは、高等学校まで実施していた既成的なダンスと本授業との違いが大きく、本授業での自由な発想の身体表現に対して馴染めないことから、身体表現をすることに羞恥心や抵抗感を感じ⁹⁾、自信が持てず、満足できなかったものと推察される。身体表現 I の授業内容では、現場で即応できるための実習授業として行った。また、学生の感性豊かな表現

力を育成し、自信をもって子どもたちに指導、援助できるように初歩的技能から基礎技能までの課題を実施した。各個人の身体表現能力や創造力の違いを鑑み、グループワークで段階的に実施したが、各授業課題において積極的なグループと消極的なグループ間に身体表現の創作時間の使い方に偏りができ、授業課題が未完成のままになったグループも存在した。

よって、今後の改善点として特に、創作身体表現の課題では、学生たちに考案する時間を増やし、想像力を身につけさせるための配慮が必要であると考え。学生自身が楽しみながら自主的に創作活動に取り組むことは、表現力、創造力が向上し、自身の身体表現能力に自信が湧いてくるであろう。また、それに伴い、絵本や絵画鑑賞など芸術分野からのイメージを身体表現させることや実際の子どもの身体表現の動画を視聴させて行くことも必要と考える。

6. まとめ

本研究では、身体表現 I の授業の受講生を対象に、授業内容のリズムあそび(質問6~質問8)、伝承・郷土あそび(質問9)、身体表現あそび(質問10~質問15)、基本的動作あそびや基本ステップ練習(質問16と質問17)、及び各種リズムダンス(質問18~質問20)の指導事項(内容)の身体表現が「やりやすいか否か(理解度)」を検討すると共に、質問に対する好き嫌いを受講生の特徴との関係を明らかにすることを目的とした。

1. ほとんどの受講生(約83%)はダンスの経験があり、ダンス(身体表現)の鑑賞が好き(約92%)で、多くがダンス(身体表現)活動が好き(約67%)であった。よって、受講生(約96%)の殆どは身体表現 I (必須)の授業は、将来の保育者になるために必要と考えていたと判断された。
2. 身体表現 I の授業内容に関する15の質問項目中2項目以外は、多くの受講生(71%以上)が指導事項に関して身体表現が「やりやすい」との回答であった。この結果は、受講生の殆どはダンスの経験があり、ダンス(身体表現)活動や鑑賞が好きであったことが関係していると判断された。
3. 受講生の過半数(約52%)は、自身の身体表現能力に満足したが、殆どの受講生(約96%)は、身体表現 I (必須)の授業を必要と考えていることを考慮すると身体表現能力に満足している受講生は必ずしも多いと

はいえないと判断された。

今回の受講生の特徴を考慮した本研究の知見は、学生が自身の身体表現能力に自信を持ち、表現力や創造力を高め、子どもたちに身体表現を指導、援助することができるようになるための身体表現Ⅰ（必須）や身体表現Ⅱ（選択）の授業改善法を検討する際に有益と考えられる。同様な調査を選択科目である身体表現Ⅱの受講生にも実施し、比較検討が必要であろう。

7. 引用文献・参考文献

1. 角尾稔ら：(1990)領域「表現」、同文書院。
2. 石澤宣子：(2015)高岡第一学園附属身体表現研修グループ附属第三幼稚園長 学校 第57号8・9, pp14-19.
3. 新山順子、高橋敏之：(2014)保育者養成における身体表現教育に関する研究の動向と課題、兵庫教育大教育実践学論集、第15号、pp. 79-87.
4. 高原和子、瀧信子、矢野咲子、怡ゆき絵、青木理子、小川鮎子、小松恵理子：(2016)「保育者養成における身体を使った表現（身体表現）指導の実態」、第69回日本保育学会、pp71-75.
5. 鈴木裕子、西洋子、本山益子、吉川京子：(2002)幼児期における身体表現の特徴と援助の視点、舞踊学 第25号、pp23-31.
6. 古市久子：(2007)「身体表現の発達に関する研究の現状と課題」、児童心理学の進歩、46, pp171-195, 金子書房.
7. 寺山由美：(2007)「表現運動」指導する際の困難さについて第55巻、pp179-185.
8. 久保景子：(2019)学生の身体表現に関する意識調査、有明教育芸術短期大学紀要 第10巻、pp93-104.
9. 石川ますみ、重松悠希：(2016)保育士養成校における学生の表現活動に対する意識変容につながる指導法の検討①、豊岡短期大学論集 No. 13, pp59-68.
10. 米倉慶子：(2017)身体表現指導のあり方、西九州大学短期大学部 幼児保育学科実践報告、pp89-93.
11. 宮下恭子：(2011)「学生のダンスや身体表現についての意識や自己評価に関する研究」、東京成徳短期大学紀要第44号、pp1-16, .
12. 松本千代栄編著：(1980)「ダンス表現学修指導全集 表現理論と具体的展開」pp108-163, 修館書店.
13. 青木理子、青山優子、井上勝子、小川鮎子、小松恵理子、下釜綾子、高原和子、瀧信子、宮嶋郁恵：(2019)新訂、豊かな感性を育む身体表現あそび、pp23-75, (株)

ぎょうせい。

14. 矢野下美智子：(2019)保育者養成における身体表現の授業のあり方について「身体表現を好きになること」と「授業内容」の関係、広島文化学園短期大学保育学科紀要、pp31-37.
15. 本山益子：(2003)子どもの身体表現の特性と発達、19, 市村出版.
16. 弓削田綾乃：(2009)幼児の身体表現に関する学生の意識と実践についての一考察、浦和大学 浦和大学短期大学部浦和論叢 第41号、pp135-146.

参考資料Ⅰ：具体的な指導内容

1. リズムあそび（質問6～質問8）
音の変化（強弱、高低、リズム）や音楽を感じながらの身体活動を通して、リズムにのる楽しさを味わい、リズム感を養うことを目的とし¹²⁾、「リズムあそび」を実施する。例として、①手首や腕の回転及び上下移動、②ハンカチやビニールを使用しての回転、あるいはそれらを上下に投げるなど、それぞれの動作を観ながら、手拍子で音の強弱、高低、やリズム変化を行う。また、からだを使ってのリズム変化、曲や色々なリズム（2拍子、4拍子、3拍子）を手拍子や足拍子で行う。また、「落ちた落ちた」の歌のリズム表現を楽しませる。
2. 伝承・郷土あそび（質問9）
場所を問わずに手軽に遊ぶことができる身近な伝承的・郷土的な表現あそびを取りあげる。伝承的・郷土的な表現あそびは、祖父母から父母へ、父母から子どもへと伝えられ、スキンシップを通して心と心を通じ合わせ、人と人との間に信頼感や安心感を育む重要な役割も果たす¹³⁾。本授業では学生が懐かしいと思う曲を選曲し、「なべなべそこぬけ、おちゃらかまい、かごめかごめ、花いちもんめ、ずいずいずっころばし」の歌に合わせて表現あそびやゲームを取り入れながら行う。
3. 身体表現遊び①（質問10～質問11）
手あそびは、子どもが集団生活の中で初めて友達とふれあい、協力するあそびであり、子どもが親しみやすく表現力を要する手遊びである¹⁰⁾。本授業では、手あそび（手をたたきましょう、グー・チョキ・パー、とんぼのめがね、でんでんむし、ひげじいさん、おべんとうばこ、不思議なポケットなど）や歌あそび（全身を使っての身体表現＝大きな栗の木の下で、どんぐりころころ、まつぼっくり、やきいもグーチーパー、おとけいさん、おちゃらかホイ、幸せなら手をたたこうなど）を取り上げる。学生がよく知っている歌に合わせての身体表現やじゃんけんゲームも取り入れ、表現活動ばかりにならないように配慮する。
4. 身体表現遊び②（質問12～質問15）
動きからの表現やイメージしたことを表現する活動を通して、動く喜びを味わう感性や表現力を養うため

に、初歩段階から基本段階である①動きから表現（いろいろな動き）、②イメージと動き、③音と動き、また発展として④まとまりのある動きを体験させる必要がある¹³⁾本授業では、身体表現の初歩的段階として質問12「みたてで（物、電車など）」、「なりきって（人物、動物など）」、基本的段階として質問13（身近な事象課題の即興的な身体表現を伴うお話づくり）の表現を、また、その展開として質問14（空想・物語の世界から身体表現を伴うお話づくり）と質問15、擬態語・擬音語・擬声語（オノマトペ）や言葉がけを取り入れた表現を取り上げる。

5. 基本的動作あそびや基本ステップ練習（質問15と質問16）

この体験は子どもに欠かせない身体能力を養うために必要な基礎技能である¹⁰⁾。質問15は、基本的な動きである歩く、走る、とぶ、ころがる、まわる、ゆれる、その他（押す、引く、つく、ちぢむ、のびる、緊張、脱力）を実施する。質問16の基本ステップはダン

スの基本技能であり、創作リズムダンスへと発展させるためには必要な要素となる。様々なステップ（2拍子、4拍子、3拍子、スキップ、ギャロップ、ツーステップなど）に上半身の動きを加えて指導する。

6. 各種リズムダンス（質問18～質問20）

学生にとって「表現あそび（猛獣狩りに行こう、落ちた落ちた）」、「型のある踊りの創作（子どもが踊れるフォークダンス）」、「音楽に振り付ける（子どもの歌＝おもちゃのチャチャチャ、ぶんぶんぶんなど）」（参考文献15を参考）の表現活動は、楽しいことが明らかであり¹⁴⁾導入した。質問18～質問20は、質問12～質問15の課題の表現活動がスムーズできない学生に配慮し、中学、高等学校でも取り入れているフォークダンス（ジェンカ、タタロチカ、マイムマイム）や音楽（選曲：おもちゃのチャチャチャ）に合わせた創作リズムダンス（グループワーク）を行う。本授業では、リズムダンスを創作し、踊る楽しさを味わい、次のステップに繋げるようにする。

参考資料Ⅱ：「身体表現Ⅰ」の受講学生の身体表現あそびに関する意識調査

「身体表現Ⅰ」の受講学生の身体表現あそびに関する認識調査のお願い

この調査は、研究のための資料としてのみ扱われるもので、個人のプライバシーを侵害したり、研究以外の目的で使用したりすることは一切ありません。安心して以下の調査に協力していただけますようお願いいたします。

1. あなたの年齢は、（ 歳） 2. あなたの性別は、（ 1. 男性、 2. 女性 ）

各設問につきましては、最も該当する番号や記号一つに○をつけて下さい。（ ）内には該当する数字や言葉を記入して下さい。

I 以下の設問は、ダンス（身体表現）に関してお尋ねします。

1. あなたは、中学校あるいは高等学校の授業でダンスの経験がありますか？

1. ある 2. ない

2. あなたは、授業以外（クラブ活動、〇〇教室など）でダンス（身体表現）の経験がありますか？

1. はい 2. いいえ

3. あなたは、ダンス（身体表現）活動は好きですか？

1. とても好き 2. まあ好き 3. あまり好きではない 4. とても嫌い

3-1 3の設問で1.「とても好き」と2.「まあ好き」を回答された方は、なぜ好きなのかを記述してください。（ ）

3-2 3の設問で3.「あまり好きではない」と4.「とても嫌い」を回答された方は、なぜ嫌いなのかを記述してください。（ ）

4. あなたは、ダンス（身体表現）を鑑賞することは好きですか？

1. とても好き 2. まあ好き 3. あまり好きではない 4. とても嫌い

4-1 4の設問で1.「とても好き」と2.「まあ好き」を回答された方は、なぜ好きなのかを記述してください。（ ）

4-2 4の設問で3.「あまり好きではない」と4.「とても嫌い」を回答された方は、なぜ嫌いなのかを記述してください。（ ）

II 以下の設問は、「身体表現Ⅰ」の授業に関してお尋ねします。

5. あなたは、「身体表現Ⅰ」の授業に興味がありましたか？

1. とても興味がある 2. まあ興味がある 3. あまり興味がない 4. 全く興味がない

5-1 5の設問で1.「とても興味がある」と2.「まあ興味がある」を回答された方は、その理由をご記入

下さい。

()

5-2 5 の設問で3.「あまり興味がない」と4.「全く興味がない」と回答された方は、その理由をご記入下さい。

()

III 以下の設問は、「身体表現 I」の授業の具体的な内容についてお尋ねします。

6. あなたは、リズムあそび（手拍子による音の強弱、高低、リズム変化）の表現はやりやすいですか？
1. とてもやりやすい 2. やややりやすい 3. やややりにくい 4. とてもやりにくい
7. あなたは、リズムあそび（ボデーパカッションを使用）の表現はやりやすいですか？
1. とてもやりやすい 2. やややりやすい 3. やややりにくい 4. とてもやりにくい
8. あなたは、リズムあそび・音あそび（手拍子、足拍子）の表現はやりやすいですか？
1. とてもやりやすい 2. やややりやすい 3. やややりにくい 4. とてもやりにくい
9. あなたは、伝承的、郷土的なあそび（わらべ歌）の表現はやりやすいですか？
1. とてもやりやすい 2. やややりやすい 3. やややりにくい 4. とてもやりにくい
10. あなたは、身体表現あそび [歌あそび・(手あそび)] の表現はやりやすいですか？
1. とてもやりやすい 2. やややりやすい 3. やややりにくい 4. とてもやりにくい
11. あなたは、身体表現あそび [歌あそび・(全身を使用)] の表現はやりやすいですか？
1. とてもやりやすい 2. やややりやすい 3. やややりにくい 4. とてもやりにくい
12. あなたは、身体表現あそび（動きから表現、イメージと動き）の表現はやりやすいですか？
1. とてもやりやすい 2. やややりやすい 3. やややりにくい 4. とてもやりにくい
13. あなたは、身体表現あそび（即興的な身体表現を伴うお話づくり）の表現はやりやすいですか？
1. とてもやりやすい 2. やややりやすい 3. やややりにくい 4. とてもやりにくい
14. あなたは、身体表現あそび（身体表現を伴うお話づくり）の表現はやりやすいですか？
1. とてもやりやすい 2. やややりやすい 3. やややりにくい 4. とてもやりにくい
15. あなたは、身体表現あそび（擬態語・擬音語・擬声語（オノマトペ）や言葉がけ導入）の表現はやりやすいですか？
1. とてもやりやすい 2. やややりやすい 3. やややりにくい 4. とてもやりにくい
16. あなたは、基本的動作あそび（歩く、走る、跳ぶ、転がる、回る、這うなど）の表現はやりやすいですか？
1. とてもやりやすい 2. やややりやすい 3. やややりにくい 4. とてもやりにくい
17. あなたは、基本ステップ練習（2拍子、4拍子、3拍子）の表現はやりやすいですか？
1. とてもやりやすい 2. やややりやすい 3. やややりにくい 4. とてもやりにくい
18. あなたは、フォークダンスの表現はやりやすいですか？
1. とてもやりやすい 2. やややりやすい 3. やややりにくい 4. とてもやりにくい
19. あなたは、リズムダンス（既成作品のダンス）の表現はやりやすいですか？
1. とてもやりやすい 2. やややりやすい 3. やややりにくい 4. とてもやりにくい
20. あなたは、創作リズムダンスの表現はやりやすいですか？
1. とてもやりやすい 2. やややりやすい 3. やややりにくい 4. とてもやりにくい

IV 以下の設問は、身体表現に対する満足と「身体表現 I」の授業の必要性についてお尋ねします。

21. あなたは自分自身の身体表現能力に満足していますか？
1. とても満足している 2. まあ満足している 3. あまり満足していない 4. 全く満足していない
- 21-1 21 の設問で1.「とても満足している」と2.「まあ満足している」を回答された方は、なぜ満足しているのかを記述してください。
()
- 22-2 22 の設問で3.「あまり思わない」と4.「全く思わない」を回答された方は、なぜ必要がないのかを記述してください。
()
23. 全体を通して身体表現活動について自由に記述してください。
()

参考資料Ⅲ 質問行項目間の関係 (1部)

		問2			χ^2	ϕ
		ある	ない			
問3	好き	13	22	35(67.3%)	5.683	0.331
	嫌い	1	16	17(32.7%)		
		14(26.9%)	38(73.1%)			
		問3			χ^2	ϕ
		好き	嫌い			
問5	ある	27	7	34(65.4%)	6.540	0.355
	ない	8	10	18(34.6%)		
		35(67.3%)	17(32.7%)			
		問13			χ^2	ϕ
		やりやすい	やりにくい			
問14	やりやすい	28	4	32(61.5%)	26.873	0.719
	やりにくい	3	17	20(38.5%)		
		31(59.6%)	21(40.4%)			

ピアスーパーバイザーからのコメント

乳幼児の指導において重要な位置を占める「身体表現」の内容を、保育者を目指す学生達に積極的かつ適切に習得させるための基礎データを得るため、学生のダンス経験等と授業理解度との関係、また、授業への満足度とこれらの関係を調査し、統計的手法で分析することによりの確に検証されている。

この研究で得られた、学生の「資質」と「学習態度・学習理解・学習評価」との関係性の成果は、「身体表現」分野だけでなく、他の多くの教育分野でも参考となる資料であると考えられ高く評価することができる。

(担当：山本章雄)